

ごあいさつ

『にいくら』28号をお届けいたします。

本号には寄稿論文一篇をはじめ、本資料館で開催した企画展の報告を収録しています。

まず巻頭に掲載しました寄稿論文は、文学部現代文化表現学科の要真理子教授による「『花蹊日記』に書かれた女生徒「節子」をめぐる一考察」です。

『花蹊日記』のなかに登場する「節子」と呼ばれる女生徒は、実は民十郎の生母「せつ」であり、さらには、その雅号を「花庭」と称したのではないかという観点から、資料を丹念に搜集して考察されたものです。

ご多用のなか玉稿を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

次いで令和4(2022)年度の花蹊記念資料館の活動報告、ならびに学芸員課程の記録を掲載しています。

花蹊記念資料館では、3年前に勃発したコロナ禍の影響により、本年度前半は学内関係者だけが参観可能という制限が設けられていましたが、秋学期から対面授業を再開するという大学の方針に合わせて11月下旬から一般公開としました。

毎年、よりよい展示ができるよう工夫・改善を心がけ、その概要をご報告致しました。ご高覧いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本誌完成にご尽力いただきました関係各位にあらためて御礼申し上げますとともに、花蹊記念資料館への変わらぬご支援、ご協力に対しまして心より深謝申し上げます。

令和5(2023)年3月吉日

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館

跡見学園女子大学 学芸員課程